

化学療法時の口内炎予防における看護役割認識と行動の変化

～口腔内観察シートを活用して～

キーワード：口内炎予防、グレード、口腔内観察シート

○石川郁代、諸橋未樹、山崎亜沙子
新潟南病院

I. 研究目的

化学療法時における副作用管理はとても重要である。口内炎発症時は経口摂取が出来なくなるだけでなく、精神的苦痛も強いされていた。これまで、口内炎予防指導は看護師が個々に行っており、統一した指導や継続した観察が行えていなかった。

今回、NCI-CTC による口内炎グレード分類を使用した口腔内観察シート（以後シートとする）を独自に作成し、化学療法前後の口内炎予防に対する看護において、「看護実践」「知識」「役割認識」がどのように変化したかを報告する。

II. 研究方法

1. 期間：平成 22 年 12 月 27 日～平成 23 年 3 月 31 日。

2. 対象：A 病院血液内科病棟看護師、アンケート前 15 名、アンケート後 14 名。

3. 方法

- 1) 看護師に口腔ケアについてアンケート実施（シート使用前後）。
- 2) 看護記録から口腔内観察記録の有無を把握。
- 3) シート作成、使用。
- 4) シートから記録内容と使用状況を把握。

4. 倫理的配慮

アンケートは無記名とし、得られた結果については研究以外では使用しない事を説明して同意を得た。

III. 研究結果

研究期間内にシート使用は 20 例だった。その記入状況とシート使用前後の看護師へのアンケート結果から化学療法時の口腔ケアに関する「看護実践」「知識」「意識」について以下に整理した。

1. 看護実践について：観察と記録

アンケートでは、「観察をしているか」の問いに、「している」と答えた職員はシート使用前が 14 人、使用後が 14 人全員であった。しかし記録の実態をシート使用前後で比較すると、使用前は無作為選別の 6 名患者記録に於いて 28.3%、シート使用後では 88%であり大きな差があった。

2. 口内炎ケアに関する知識について

シート使用前はグレード分類を知らない職員は 9 人だったが、グレード評価について指導・説明した結果、94%の職員がグレード評価を正しく行っていた。また、口内炎がしやすい薬剤を知っている職員は 6 人から 13 人と増加した。

3. 口内炎ケアに対する意識について

シート使用後「口内炎予防への関心が高くなった」という質問に「あった」「少しあった」と答えた職員が 13 人、「予防できると思うようになった」という質問に「あった」「少しあった」と答えた職員が 11 人だった。

IV. 考察

1. シート使用の評価と効果

シート使用により 4 つの効果が得られた。

1 つ目は、口内炎予防のための具体的な実践が早期に確実に行われるようになったことである。治療開始

と同時に専用記録用紙を用いて記録することをルーチンワークとし、観察・記録ができれば指導の機会も増えていくことが分かった。また、記録を行うことで早期に必要な対応へと結びつけられるようになったと考える。

2 つ目は、口内炎予防に必要な知識が職員に共有されるようになったことである。グレード分類を知らなかった職員も、シート使用後はほとんどがグレードの評価を正しく行っている。また、口内炎を起こし易い薬剤や口内炎に使用する薬剤の知識も増えていた。これはシートが観察項目からグレード表・指導内容までが連動して見られるような書式であったためと考える。

3 つ目は、口内炎予防に対する意識の変化である。殆どの職員が「口内炎予防への関心が高くなった」「看護によって予防できると思うようになった」と答え、口内炎に対して「悪化することは『看護不足』『指導不足』である。」という回答もあった。このことから、看護師の口内炎予防への役割認識が少しずつ高まっていると言える。

4 つ目は、チームのコミュニケーションやコンセンサスが取れるようになり、患者への統一した看護が提供されたことである。上野が、「チームのコミュニケーションやコンセンサスが上手に取れていないと、微妙に異なる情報が患者に伝わり、混乱や不信感を招くことになりかねない。」²⁾と述べているように、患者に提供される看護を向上するためには統一・一貫した観察と援助が必要であり、シートはそのことに役立ったと言える。

2. 化学療法中の口内炎予防とシートについて

福島らが「口腔粘膜炎は疼痛と食事の摂取困難によって患者の QOL を低下させるだけではなく、管理が不十分な場合は二次感染を引き起こす。いったん起きると治療は難しいので、予防が何よりも重要である。」³⁾と述べている。今回シートを使用したことによって、職員の知識が増え、具体的な実践が早期に行えるようになり、継続した看護が出来るようになった。このことからシートは口内炎予防における看護に有効だったと考えられる。

V. 結論

1. 職員がシートを使用したことで観察したことを確実に記録でき、継続的なアセスメントができるようになった。
2. 職員がグレード分類による評価ができ、口内炎予防に必要な知識が高まった。
3. 上記のことから看護師の口内炎予防への役割認識が高まった。

引用文献

- 1) 上野直人.がんチーム医療における看護師の役割. インターナショナルナースングレビュー.2007 ; 30 (4) : 21.
- 2) 福島雅典 柳原一広.がん化学療法と患者ケア 第 2 版 183.東京都：医学芸術社；2005.